

# 小八木村東遺跡

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小八木村東遺跡 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

高崎市教育委員会  
吉田八重子  
スナガ環境測設株式会社

# 小八木村東遺跡

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

高崎市教育委員会  
吉田八重子  
スナガ環境測設株式会社



## 例　　言

- 1 本報告書は、宅地造成工事に伴って実施した小八木村 東遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県高崎市小八木町字村東1420-1,1421-1,1422,1433
- 3 調査は、高崎市教育委員会（教育長 飯野 真幸）の指導、監理のもとに委託者 吉田 八重子の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永 真弘）が実施した。
- 調査指導・監理 田口一郎・田辺芳昭（高崎市教育委員会）
- 調査担当者 権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成25年12月6日～平成26年1月6日
- 整理期間 平成26年1月7日～平成26年3月25日
- 5 調査面積 297m<sup>2</sup>
- 6 調査資料は、高崎市教育委員会が保管する。
- 7 本調査は高崎市教育委員会の調査番号「582」である。
- 8 本書は、高崎市教育委員会指導のもと、スナガ環境測設（株）が作成に当たり、原稿執筆… I について  
は高崎市教委、その他は権田が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（敬称略）
- 芳川孝夫 古森東一 塚越昇 岡本佳久 常見智之 加藤政紀  
小野克彦 岩井ひさえ 西谷徳雄 星野陽子 長澤俊男 武井知司  
小林隆一 松井直人

## 凡　　例

- 1 遺跡番号は582番である。
- 2 実測図中の記号 P…土器。
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。  
　遺跡平面図（1/100・1/200）、遺構断面（1/60）を使用した。
- 4 掘図に国土地理院発行の20万分の1「宇都宮」・「長野」、2万5千分の1「前橋」と  
　高崎市発行の5千分の1都市計画基本図、大日本帝国陸地測量部発行の20万分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、世界測地系に基づく座標値を使用。水準点 B.M.1…98.40m。等高線5cm
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
- 7 土層注記及び本文中には、1108年降下浅間山起因の軽石の略称を As-B、6世紀前半降下榛名山起因の軽石の略称を Hr-FP、6世紀初頭降下榛名山起因の火山灰の略称を Hr-FA、3世紀終末～4世紀初頭降下浅間山起因の軽石の略称を As-C として使用した。
- 8 土層注記中の縦は縦まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。



## 目 次

I 調査に至る経緯 .....	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針.....	5
2 調査経過.....	7
IV 層序.....	7
V 検出された遺構と遺物	
1 古墳時代の墓跡.....	8
2 As-Cで埋まつた溝跡 .....	9
VI まとめ.....	9

## 挿 図

第1図 遺跡位置図.....	2	第5図 迅速測図.....	10
第2図 周辺遺跡図.....	4	第6図 遺構概要平面図.....	11
第3図 遺跡周辺図.....	6	第7図 A-A'～K-K'断面図 .....	12
第4図 基本土層断面図.....	7	第8図 小八木村東遺跡全体平面図.....	13

## 表

第1表 周辺遺跡一覧表.....	5	第2表 砂講計測表.....	8
------------------	---	----------------	---

## 写真図版

図版1 小八木村東遺跡全景（東から）、小八木村東遺跡全景（上から）	
図版2 遺構全景（西・東・北・南から）、溝跡1・2全景、溝跡1南壁断面、 北トレンチ、基本土層断面（西壁B-B'）	
図版3 ジョレン精査状況、移植ゴテ掘削状況、西壁断面（A-A'）・（B-B'）、遺物写真（No.1～33）	



## I 調査に至る経緯

平成25年7月、吉田八重子氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に共同住宅及び宅地分譲予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地は埋蔵文化財包蔵地であるため、試掘調査による確認を実施し工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年7月30日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年8月22日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構・遺物を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、開発予定地の内、道路建設部分について記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、スナガ環境測設株式会社に委託して実施することとなり、平成25年11月15日付けで高崎市教育長・事業者・スナガ環境測設の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成25年11月15日付けで事業者とスナガ環境測設の二者で発掘調査委託契約が締結された。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 遺跡の立地

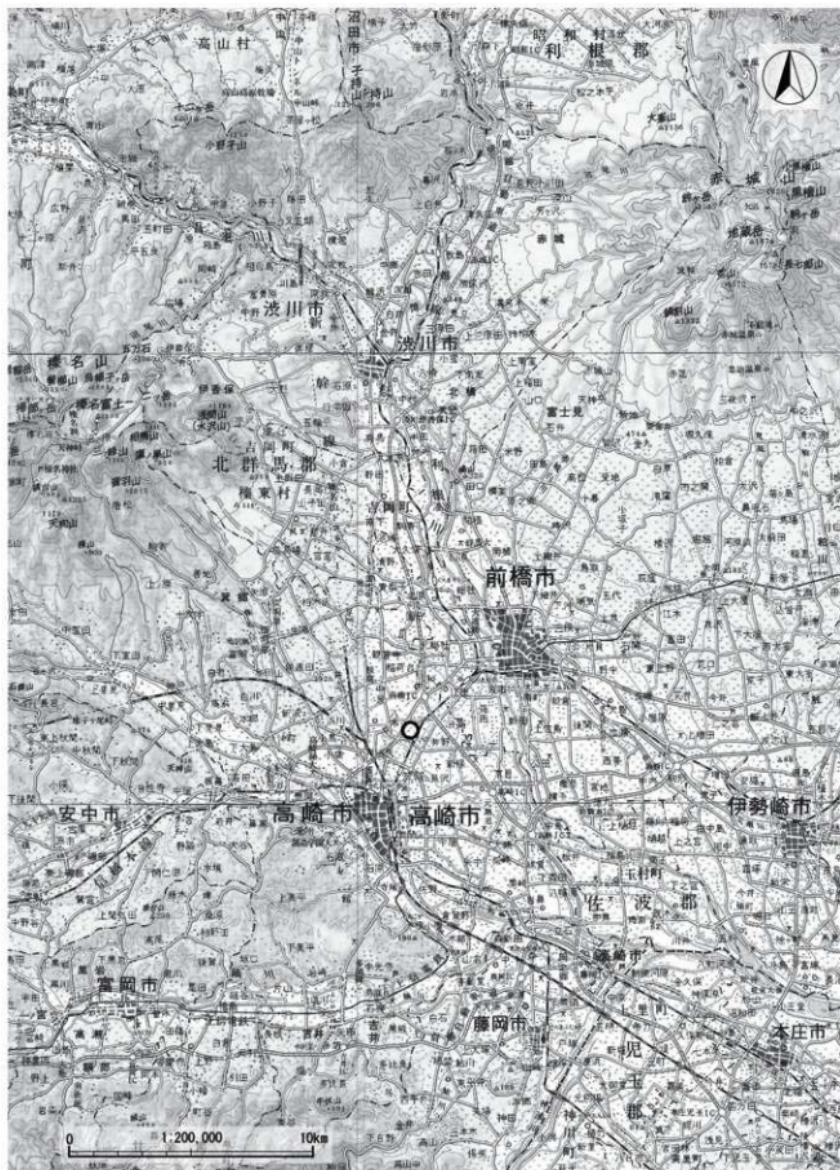
前橋・高崎台地は火山泥流堆積物とそれを被覆する火山灰質シルト－粘土（水成上部ローム層）から成り立つ洪積台地で、東は広瀬川低地帯と直線的な崖で画され、西は榛名山麓の扇状地へと続く。現在南流する利根川によって東西に分断されているが、旧利根川は氾濫原と思われる広瀬川低地帯に沿って東流し、台地縁辺をまわっていたと考えられている。したがって広瀬川低地帯から烏川によって切られる部分の前橋市街地から高崎市街地を含む広範囲で平坦な台地になっている。本遺跡は、北西から南東に広がる前橋・高崎台地の北西端にあり、標高99m付近に位置し、井野川や染谷川などの中小河川による浸食の影響を大きく受け微高地と低地が入り組むような地形の中で微高地に位置している。

小八木村東遺跡は、JR 上越線井野駅より北西へ0.5km、関越自動車道前橋インターチェンジより南西へ1.7km程の所にある。かつては高崎市街地から北へ外れ、のどかな田園風景が広がっていたが、17号バイパスや関越自動車道が建設され、周辺道路の整備が進み、本遺跡の東に位置する中尾住宅団地などの宅地開発が行われ、現在更なる開発が進んでいる。また、本遺跡の南方約600mには井野川が北西から南東へ流下し、西方約70mには井野川の支流である正觀寺川が南流し、川沿いの市道には住宅が連なっている。

### 2 歴史的環境

本遺跡の周辺では1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道、近年では主要地方道高崎・渋川線の改築（改良）工事に伴う発掘調査や、その沿線に出店する大型店舗や、その他道路などの発掘調査で多くの遺構が検出されている。本項では周辺の遺跡についての状況を概観する。

この地域では、縄文時代前期より前の遺構・遺物は洪水による災害のため検出・出土は確認されていない。縄文時代前期では、元総社小見VII遺跡（10）で竪穴住居跡が検出され上野国分僧寺・尼寺中間地域（6）では諸磯C期の埋甕が出土している。中期では、西浦北遺跡（41）から柄鏡式住居跡を検出し、そのほか権現原遺跡（40）、大八木箱田池遺跡（44）、上野国分僧寺・尼寺中間地域から住居跡を検出した。後期では、福島飛地遺跡（35）、西浦南遺跡（42）で土器片が包含層から出土しているだけであった。小八木志



第1図 遺跡位置図

志貝戸遺跡（26）では、敷石住居を検出した。縄文時代の遺跡は他の時代と比較すると少ない。

弥生時代においては、前期後半から中期では、西三社免遺跡（19）、上野国分僧寺・尼寺中間地城、新保遺跡で集落遺跡が確認され、後期前半では、熊野堂遺跡（43）、浜尻遺跡（49）、新保遺跡で確認されたが少ない。後期後半では、正觀寺遺跡群（2）は、環濠集落と方形周溝墓が、小八木I遺跡（32）でも集落を検出し、小八木志志貝戸遺跡で集落、墓域などを検出している。また、井出村東遺跡（39）、西浦北遺跡、西浦南遺跡、熊野堂遺跡、雨瀬遺跡（45）、諸口遺跡（34）などで多くの住居跡が検出されていて、小規模な集落が多く存在していた。

古墳時代においては、前期では竪穴住居跡は西三社免遺跡、小池遺跡（18）で検出され、中期以降三ツ寺I遺跡（37）と北谷遺跡の首長居館の存在により、中林遺跡（38）、井出村東遺跡（39）、三ツ寺II遺跡（36）、熊野堂遺跡においても住居件数が飛躍的に増加している。また、水田や畠などが周辺地城で確認されている。畠跡は、棟高水塙II・棟高辻の内IV遺跡（20）、小八木志志貝戸遺跡、小八木井野川遺跡（27）、諏訪西遺跡で検出されている。水田は、大八木屋敷遺跡（31）、熊野堂遺跡、小八木I遺跡、菅谷石塚遺跡（24）など多くの遺跡で検出されている。古墳は、5世紀後半から6世紀前半に築造され、凝灰岩の板材を組み合わせた石棺をもった聖天山古墳（54）、6世紀後半井野川中流域における中核をなす首長墓と考えられている五雲神社古墳（53）と浜尻天王山古墳（50）がある。また、オトウカ山古墳（33）の周辺には数基の古墳が連なり菅谷古墳群として後期・終末期の円墳を中心とした古墳群を形成している。

奈良・平安時代においては、本遺跡から北北東約3.5kmの位置に上野国府の推定地（7）があり、北方約3.8km付近には上野国分僧寺（8）・尼寺（9）が建立され、古代の中枢施設が存在し、周辺の遺跡調査からは集落跡が極めて高密度に検出されている。また本遺跡から北東約1.3kmにある日高遺跡（3）は本県における条里制水田の研究の先駆となった遺跡で、大畔を検出し条理的地理的割の解明に大きく寄与した。As-B軽石下水田跡の調査も非常に多く行われ、日高遺跡周辺から南側の地域は律令社会を支える重要な水田地帯であったことが窺える。

中・近世では、近世の高崎城の前身は、棟名山の傾斜部に位置する箕輪城で、そこを本拠とした長野氏は群馬郡地域で大きな影響力を持っていた。井野川上流域には長野氏関連と推定される居館址・砦跡が多く分布している。一方群馬郡東部は上野国府跡（7）に形成された菅海城跡を本拠とする總社長尾氏が15世紀には力を持っていた。前橋城の前身である厩橋城も同氏の影響下にあり、関連と推定される遺跡が多く報告されている。



第2図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

1 小六木村東遺跡	19 西三社免遺跡	37 三ツ寺Ⅰ遺跡
2 正觀寺遺跡群	20 棚高辻Ⅱ・棚高辻の内Ⅳ遺跡	38 中林遺跡
3 日高遺跡	21 棚高辻久保遺跡	39 井出村東遺跡
4 中尾遺跡	22 棚高辻三郎街道遺跡	40 権現原遺跡
5 烏羽遺跡	23 高貝戸遺跡	41 西浦北遺跡
6 上野国分僧寺・尼寺中間地城	24 菅谷石塚遺跡	42 西浦南遺跡
7 上野国府推定地	25 正觀寺西原遺跡	43 犬野堂遺跡
8 上野国分僧寺	26 小八木志貝戸遺跡	44 大八木箱田池遺跡
9 上野国分尼寺	27 小八木井野川遺跡	45 雨垂遺跡
10 元郷社小見Ⅲ遺跡	28 井野川遺跡	46 大八木遺跡
11 元郷社小見Ⅰ～Ⅲ遺跡	29 小八木蘿貝戸遺跡	47 磐通寺遺跡
12 元郷社草作Ⅴ遺跡	30 小八木Ⅱ遺跡	48 緑町4丁目遺跡
13 上野国分寺参道遺跡	31 大八木屋敷遺跡	49 浜尻遺跡
14 碠田村東遺跡	32 小八木Ⅰ遺跡	50 浜尻天王山古墳
15 元郷社西川・硠田中原遺跡	33 オトウカ山古墳	51 浜尻宅地後遺跡
16 碠田村東Ⅳ・硠田中原・引間松葉遺跡	34 豊口遺跡	52 貝沢Ⅰ遺跡
17 国府南部遺跡群	35 福島飛地遺跡	53 五雀神社古墳
18 小池遺跡	36 三ツ寺Ⅱ遺跡	54 聖天山古墳

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

委託された調査範囲は、宅地造成地の6m道路部分のみでL字の形状をしている。また、調査区の南側に高く積まれたブロック塀が隣接し、西側の道路部分には深さ50cmの道路側溝が施工してあるため、1mの間隔をあけ掘削した。

グリッドは、西から東へX1、X2、X3、…、北から南へY1、Y2、Y3、…を基本として、グリッド原点X0、Y0は、世界測地系に基づく座標値X=40,340.000、Y=-73,080.000を使用し、5m毎にグリッドを設定した。グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は調査区域に1ヶ所(B.M.1 H=98.400m)測設した。

図面作成については、平面図はトータルステーションによる機械測量を行った。断面図は造り方による細部測量で1/20の縮尺を使用し作図を行った。また、遺構等の写真撮影は35mmモノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラの3種類を使用し、ラジコンヘリコプターによる空中撮影も実施した。



第3図 遺跡周辺図

## 2 調査経過

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務について、高崎市教育委員会と吉田八重子氏との協議により発掘調査を実施し、記録保存することになった。

調査は、高崎市教育委員会の文化財保護課の指導、監理のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。

平成25年12月6日、事務所設置及び資材搬入を行い、9日より重機による表土掘削を開始し、同時にバリケード等により安全対策を行った。遺構確認面は業務監督員の指導を得て行うとともにジョレン掛精查により遺構確認と壁切りを行った。また、ブルーシートを2枚重ねて確認面と壁を保護した。12日から移植ゴテにより隙間に堆積したHr-FAの除去を開始した。17日に基準点測量を行い、21日から断面図の作成を始めた。22日にラジコンヘリコプターにより空撮を行った。24日、遺構平面図作製作業を始めた。また、業務監督員の指導により畠跡の断ち割りやサブトレーンチ等の指示を受けた。25日、前日の業務監督員の指導部分について確認され、記録保存が終了した後、埋め戻しの許可を得る。28日午前中に図面、写真など記録保存が終了し、午後から埋め戻しを開始し完了した。資材及び機材の片付け作業は、平成26年1月6日に完了した。

## IV 層序

本遺跡の基本土層は、調査区内の西壁断面B-B'に入れた深掘りトレントをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第4図に示したとおりである。



第4図 基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1 古墳時代の畠跡

畠跡は、調査区全面で確認した。耕作土はX層のAs-Cを含む黒色土である。畠が位置する地形は、南西方向へ向かって緩い傾斜地である。畠溝は29条検出し、ほぼ傾斜に沿う状態で掘られ、傾斜が変化している部分では角度も変化する状態が見られた（畠溝No22～26）。IX層のHr-FAで埋まっていた。畠溝間隔は、90～155cm、上幅18～95cm、深さ2～15cmほどである。X 4・5、Y 3・4グリッド付近では畠溝が検出されなかったので、他の遺構の存在が考えられ、サブトレーンチを入れてみたがその様子は見られなかった。また、X 7、Y 0グリッドでは土器の小片が確認面に散乱していた。全て土師器で、多くが甕の胸部であった。高坏の脚部と坏部を数点出土した。住居から畠への転用が考えられ、サブトレーンチを入れたがその様子は見られなかった。各畠溝の計測表は第2表にまとめて報告する。

第2表 畠溝計測表

畠溝No.	長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)	溝間隔(cm)	方向	角度
1	(3.06)	38～55	9～13	7～12	115～120	NE→SW	N-80°-E
2	(6.08)	29～95	8～22	6～10	110～120	NE→SW	N-81°-E
3	(6.09)	32～73	6～34	4～10	105～130	NE→SW	N-80°-E
4	(6.13)	31～62	7～13	5～9	108～126	NE→SW	N-78°-E
5	(6.16)	35～67	5～16	4～10	100～120	NE→SW	N-77°-E
6	(6.11)	36～66	9～20	4～10	100～115	NE→SW	N-77°-E
7	(6.12)	41～72	10～30	5～10	90～114	NE→SW	N-78°-E
8	(6.15)	35～62	9～29	5～9	120～140	NE→SW	N-77°-E
9	(6.15)	38～84	11～27	4～10	140～155	NE→SW	N-78°-E
10	(6.15)	44～70	8～18	6～15	108～120	NE→SW	N-79°-E
11	(6.18)	40～65	8～14	5～11	113～123	NE→SW	N-78°-E
12	(6.56)	45～68	10～20	5～13	105～126	NE→SW	N-80°-E
13	(8.12)	32～85	7～27	4～13	113～130	NE→SW	N-81°-E
14	(7.71)	50～73	7～20	5～12	105～124	NE→SW	N-80°-E
15	(9.36)	28～73	9～20	4～15	123～136	NE→SW	N-81°-E
16	(7.27)	25～50	7～12	3～7	117～138	NE→SW	N-81°-E
17	(6.30)	31～60	12～20	3～8	124～140	NE→SW	N-82°-E
18	(5.84)	37～83	11～18	3～10	134～140	NE→SW	N-83°-E
19	(2.71)	43～60	7～20	5～9	134～140	NE→SW	N-83°-E
20	(1.16)	18～27	5～13	8	—	NE→SW	N-85°-E
21	(1.67)	62	15～18	10～13	105～115	NE→SW	N-83°-E
22	(6.03)	48～77	8～25	7～12	106～118	NE→SW	N-84°-E・N-77°-E
23	(8.65)	33～70	9～27	5～12	114～125	NE→SW	N-84°-E・N-72°-E
24	(11.16)	30～63	8～21	4～13	108～130	NE→SW	N-85°-E・N-70°-E
25	(12.53)	43～66	9～23	4～15	104～125	NE→SW	N-85°-E・N-70°-E
26	(11.36)	24～67	10～27	3～9	100～115	NE→SW	N-70°-E・N-81°-E
27	(4.13)	32～46	10～26	2～7	108～115	NE→SW	N-73°-E
28	(4.32)	42～58	9～17	4～10	103～112	NE→SW	N-73°-E
29	(2.30)	55～59	10～18	4～7	NE→SW	N-80°-E	

\*各項目は測量データからCADソフトを利用し、畠溝間隔は芯々間を計測し、( )は検出値とした。

\*E・W・S・Nは東・西・南・北を表す。

## 2 As-C軽石で埋まつた溝跡

本遺跡の西側で溝跡を2条検出した。重機による試掘トレンチに、スコップでサブトレンチを掘削した時に畠跡上端面から5~10cm下層で確認された。位置はX2・3、Y3・4グリッドで、北から南へ140~200cmの間隔で、畠跡の歓溝にはほぼ直角に並走している。検出した畠跡より古い溝である。西側に検出した溝跡1の上幅は86~93cm、下幅は48~52cm、深さは12~25cmを測る。東側に検出した溝跡2の上端は100~115cm、下幅は44~58cm、深さは30~40cmを測る。両者とも埋没土はAs-C軽石の一次堆積層が下層にあり、上層には黒色土が混入したAs-C軽石二次堆積層が堆積していた。遺物は出土しなかった。

## VI まとめ

本遺跡周辺地域は、榛名二ツ岳噴火の時10cm前後のHr-FA火山灰（6世紀初頭降下）で覆われたことが低地や谷地等の火山灰の堆積状態から判明している。本遺跡の畠跡の歓溝は、Hr-FAが埋没土であるが畠跡全面が覆われていない。台地上では降灰後の復旧のため火山灰を低地に集めたり、穴を掘って埋めたりしたほか、そのまま耕すことによって下層と攪拌し継続使用したと考えられる。また、風化作用による飛散、雨水や洪水による流失などが表面の火山灰滅失理由として挙げられる。本遺構の壁断面を見ると、歓溝に残されたHr-FAの様子から、畠歓の上端より小高に盛った状態が見られた。おそらく災害後畠の復旧作業として低く窪んでいる歓溝にHr-FA火山灰を寄せ集めて畠の継続を試みたと思われるが、復旧後耕して食物を植え育てたかは不明である。畠を耕作していた頃の地盤は南西方向に0.9%の勾配で傾斜している。地域的には榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地から前橋台地上では、南東方向に傾斜しているが、井野川や支流の正觀寺川の影響なのか傾斜が南西方向になっており、迅速測図もその地形の名残を留めている。畠跡直上のV層には褐色灰色粘質土に直径5mm前後の白色軽石粒が含まれている。この白色軽石粒は6世紀前半ごろ榛名二ツ岳が噴火した時の噴出物で、Hr-FP（榛名二ツ岳軽石）と呼ばれる物と思われる。

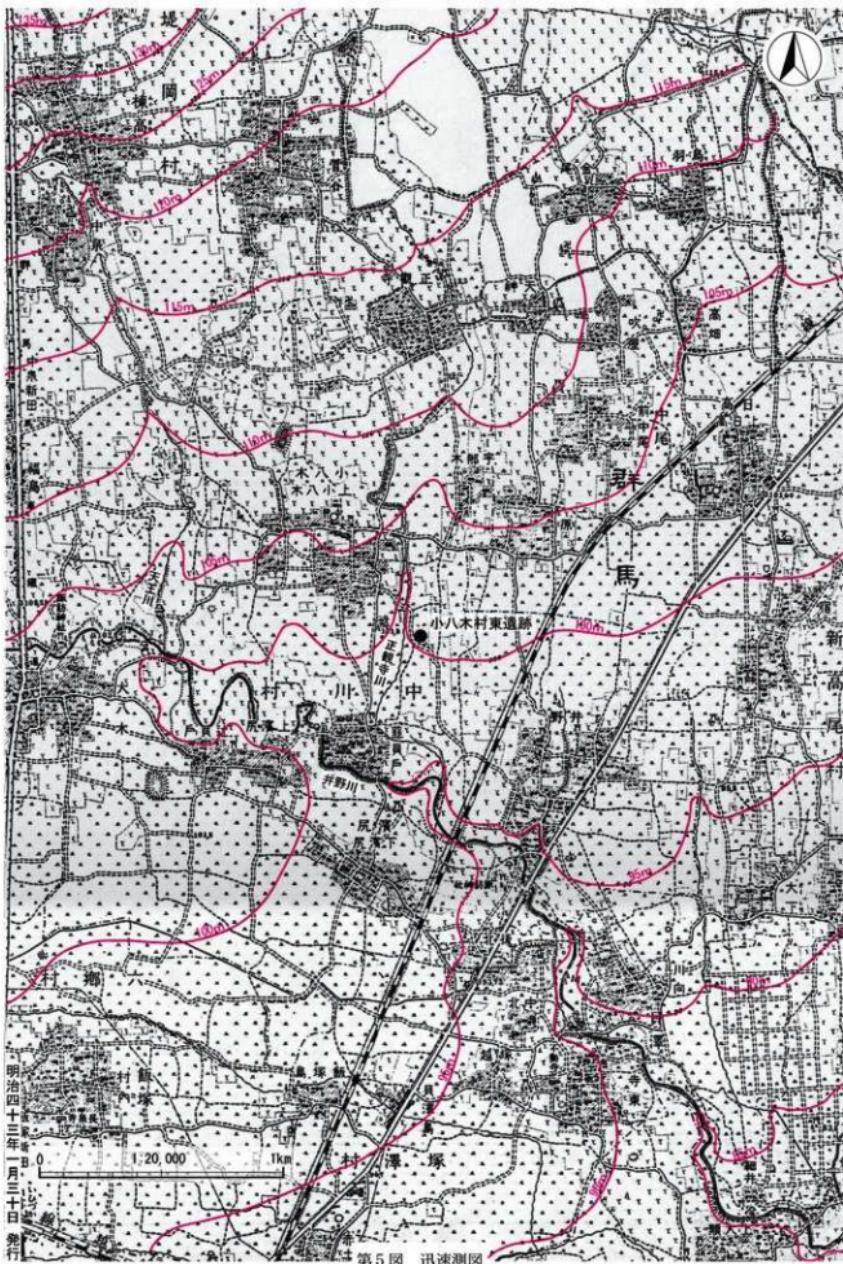
畠跡の下から溝跡を2条検出したが、畠の黒色土（X層）に含まれるAs-C軽石で埋まっており、その上に畠の土が5~10cmほど覆っている状態であった。検出した畠跡より古く3世紀末頃には溝がすでに掘られ、耕作が行われていた可能性があり、浅間山の噴火によりAs-C軽石が降り積もった後、溝は廃止しされそのまま耕し畠として継続していくと考えられる。X7、Y0グリッドでは上器師の甕や高杯の小片が出土した。近接して住居跡など集落が存在すると思われるが畠から住居へ、または住居から畠への転用もなく、この地は当時生産域として土地利用されていたと考えられる。

畠跡は南西方向に傾斜していると前記したが、上層にあるAs-B軽石直下の黒色粘質土（V層）の上端でも0.6%の勾配で南西方向に傾斜している。宅地造成区域の南東側の試掘トレンチでは水田跡の畦畔状の高まりを検出したが、当該遺跡調査区域では水田畦畔が確認できなかった。おそらく地形のことから水田耕作には向きであったと考えられる。

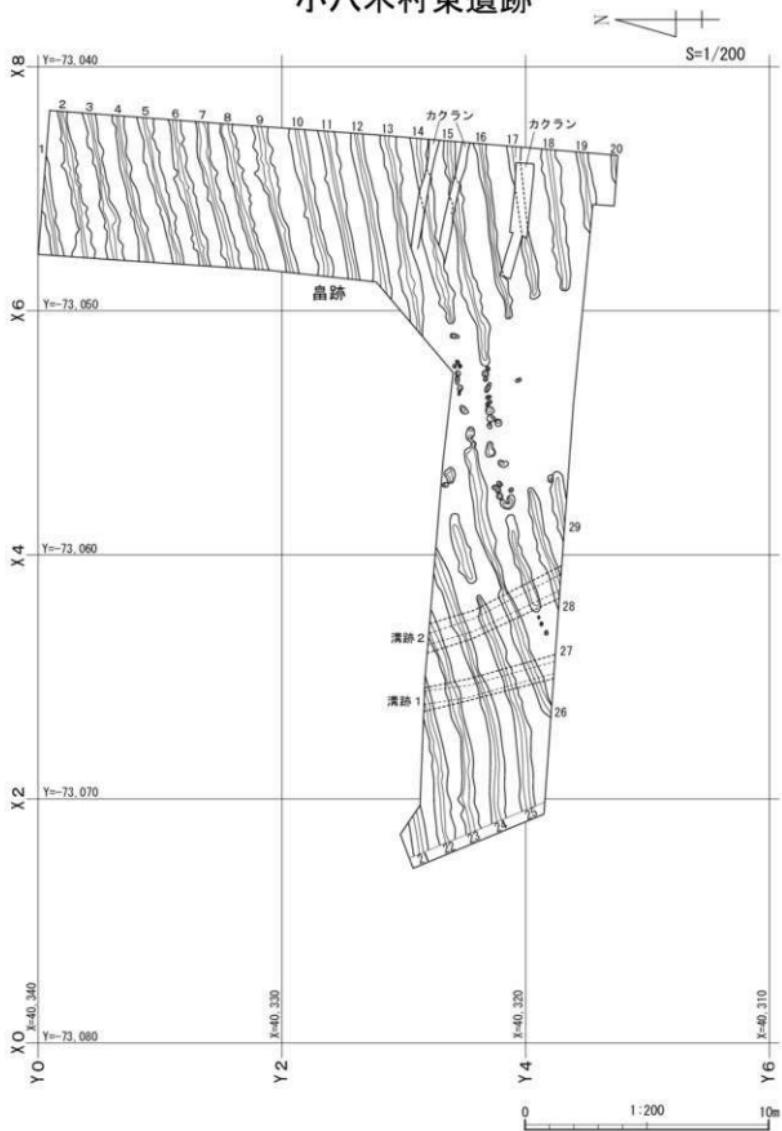
### 参考文献

- 小八木道路Ⅰ 1979 高崎市教育委員会  
小八木道路Ⅱ 1980 高崎市教育委員会  
井野川道跡 1984 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
雨森道跡 1984 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

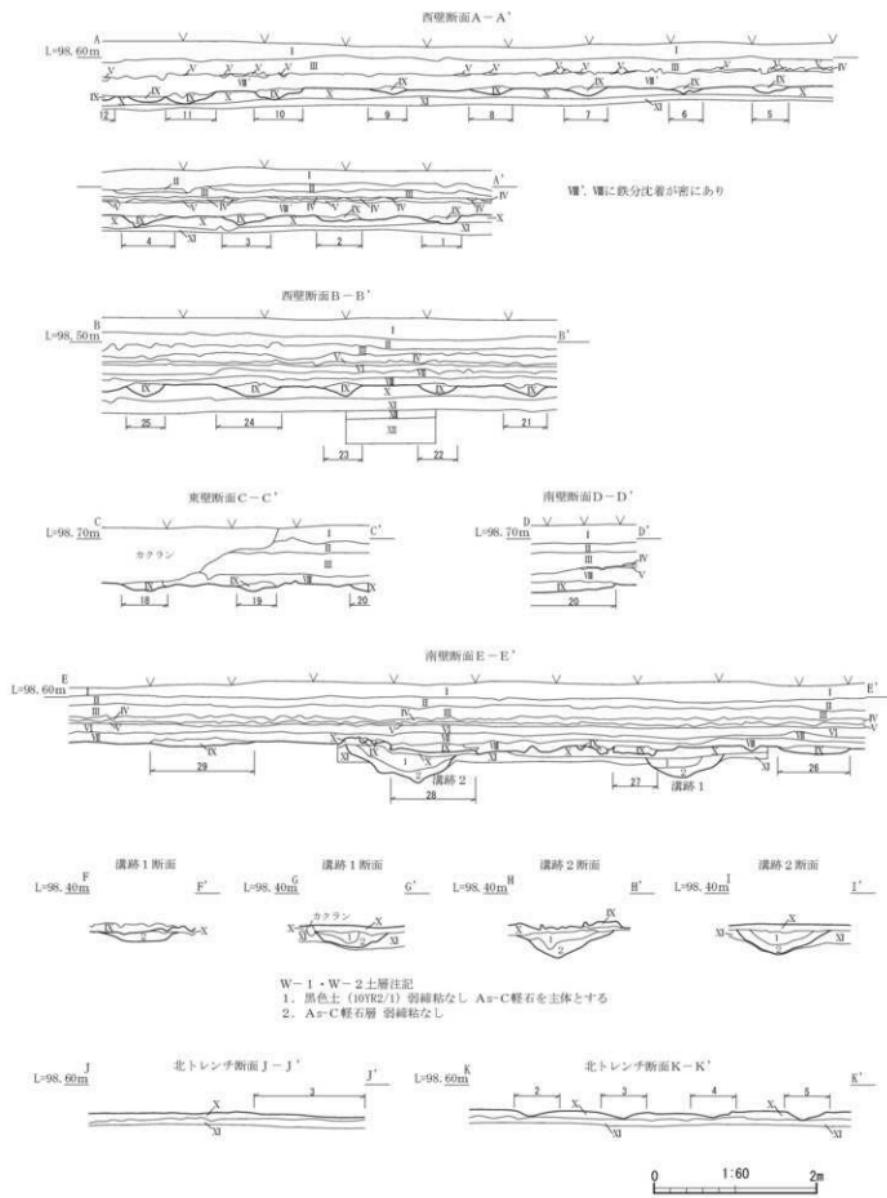
- 小八木志賀戸道跡群Ⅰ~3 2001 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
小八木志賀戸道跡4 2001 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
桙高水庭Ⅱ・桙高辻の内IV道跡 2008 高崎市教育委員会



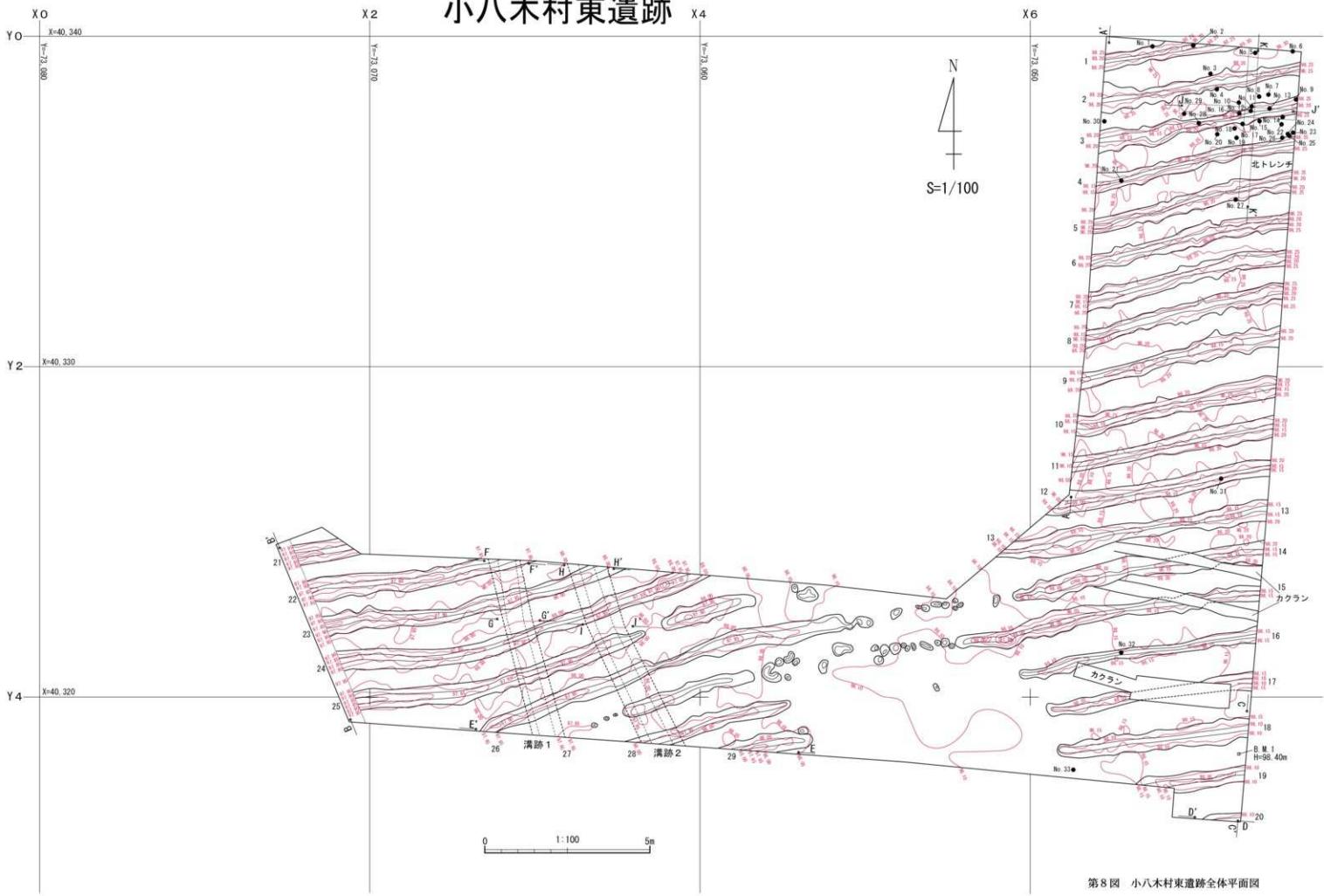
# 小八木村東遺跡



第6図 遺構概要平面図



# 小八木村東遺跡



第8図 小八木村東遺跡全体平面図



小八木村東遺跡全景（東から）



小八木村東遺跡全景（上から）

図版 2



遺構全景（西から）



遺構全景（東から）



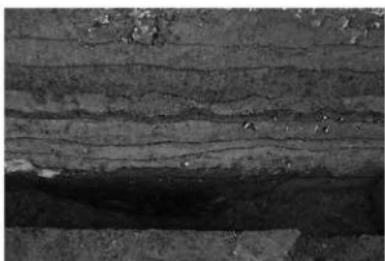
遺構全景（北から）



遺構全景（南から）



溝跡 1・2 全景



溝跡 1 南壁断面



北トレンチ（北から）



基本土層断面（西壁 B-B'）



ジョレン精査状況



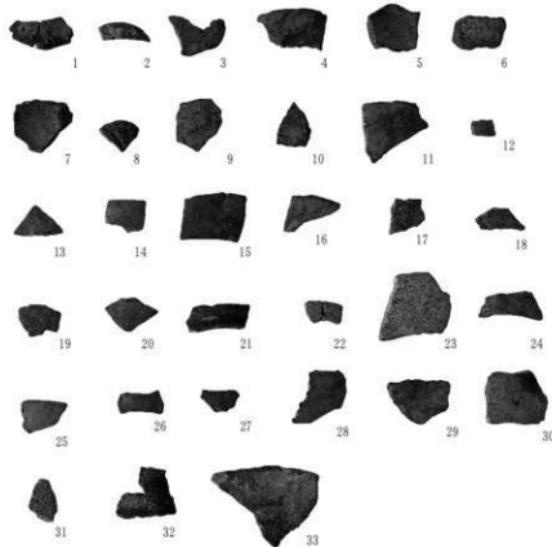
移植ゴテ掘削状況



西壁断割り断面 (A-A')



西壁断割り断面 (B-B')



遺物写真 (No. 1 ~ 33)

## 抄 錄

抄 錄	
フ リ ガ ナ	コヤギ ムラヒガシ イセキ
書 名	小八木村東遺跡
副 書 名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷 次	
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第330集
編 著 者 名	権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
発 行 機 関	高崎市教育委員会 文化財保護課 〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発 行 年 月 日	西暦2014年3月25日

フ リ ガ ナ 所 収 遺 跡 名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 綏			
小八木村東遺跡	群馬県高崎市小八木町字村東1420-1,1421-1,1422,1433	102020	582	36°21'38"	139°1'10"	20131206 ～ 20140106	297m <sup>2</sup>	宅地造成工事

所 収 遺 跡	種 别	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小八木村東遺跡	生 産 跡	古墳時代	畠跡	土師器片	

## 小八木村東遺跡

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年3月20日 印刷

2014年3月25日 発行

発 行 高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1

TEL 027-321-1291

編 集 スナガ環境測設株式会社

前橋市青柳町211-1

印 刷 朝日印刷工業株式会社